

Accompañamiento del baile

片桐勝彦のバイレフラメンコ

texto por Katsuhiko Katagiri

VOL.25 > Farruca

～はじめに～ ファルーカの起源や成立過程、リズム、カンテサリーダなどはガロティンに類似する部分がかなり多いので、昨年12月号と見比べながら読み進めてください。

◆ ファルーカの起源 ◆

ファルーカの起源はガリシア地方やアストゥリアス地方だと言われています。それは、当時ガリシアやアストゥリアスなど北西スペインからアンダルシアやアメリカ大陸に移住した人たちのことをファルーコ(女性はファルーカ)と呼んでいたことに起因しています。また、ファルーカの歌詞の内容やサリーダの歌い方などからも、その関連性が深いことがうかがえます。



カフェ・カンタンテ(19世紀中頃から20世紀初頭にかけて流行したカンテの黄金期)の終わりの時代1900年代に、ファイーコ(フランシスコ・メンドサ・リオス 1870-1938)がラモン・モントージャ(1880-1949)の伴奏でファルーカの踊りを生み出しました。ファイーコはマドリードやバルセロナ、更には



ファイーコ



ラモン・モントージャ

諸外国の劇場で成功を収め、ファルーカやガロティンなどの曲種が流行しました。そして、その後のフラメンコ・オペラの時代(1920～)へと続いていきます。

◆ 成立過程 ◆

ファルーカの踊りは先述のファイーコの後、ホアキン・エル・フェオ(?-1940頃)やエル・ガト(1920-1960年代)、更にはアントニオ・ガデス(1936-2004)等に引き継がれていきました。ギターはラモン・モントージャの他、ニーニョ・リカルド(1904-1972)、サビーカス(1912-1990)といった名手たちがこぞってファルーカの名演を残しています。カンテでは、エル・モチュエロ(1868-1937)、マヌエル・トーレ(1878-1933)、ラ・ニーニャ・デ・ロス・ペイネス(1890-1969)、ラファエル・ロメロ(1910-1991)等が歌うことでフラメンコのパロとして確立されました。



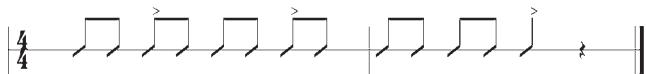
《著者プロフィール》

日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリクマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。'98年から長期渡西。マドリードのタブラオ“カサ・バタス”やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街で」出演。主な参加CD・DVD：風回廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy(coba)他。Estudio ROMERO主宰。

◆ 音楽的特徴 ◆

リズム

もともと男性や闘牛士の踊りとして成立したこと、力強くシャープで堂々とはっきりしたリズムを持っています。ガロティン同様リズムや音楽的特徴からタンゴに分類され、4分の4拍子で記譜した場合2小節(8拍)で1コンパスになります。



調性

調性はフラメンコにめずらしいマイナー・キー(短調)です。通常、Aマイナー(イ短調)で演奏されますが、Eマイナー(ホ短調)で演奏されることもあります。

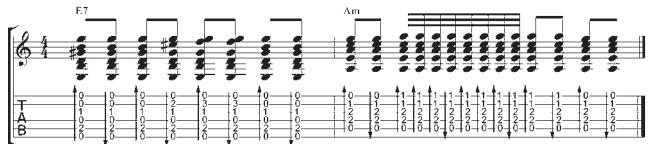


◆ ギターの弾き方 ◆

よく使われる音やコンバスの弾き方、ジャマーダや代表的なファルセータを紹介します。

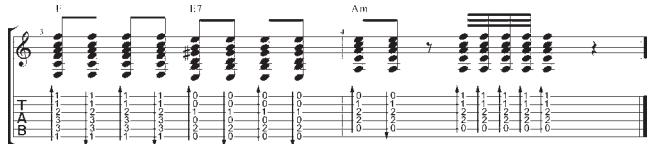
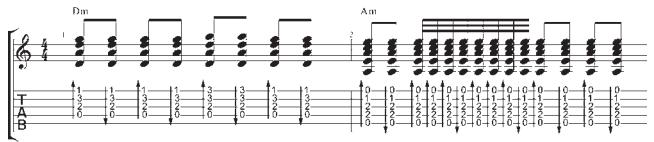
コンバス

基本のコード進行はE7-Amですが、時折D♯などの長調の音が入ることもあります。



ジャマーダ

テンポによってリズムの刻み方を変えるようにしてください。ジャマーダでいきなり速さを変えることが一般的です。



ファルセータ

伝統的なメロディーを一つ紹介します。粘り気と奥深いある太い音で力強く弾いてください。このコード進行で他に数多くのバリエーションが存在します。

The sheet music shows three staves of musical notation for guitar. The top staff is in G major (G7 chord) with a tempo of 120 BPM. The middle staff is in B major (Bm7b5 chord) with a tempo of 100 BPM. The bottom staff is in A major (Am chord) with a tempo of 100 BPM. Fingerings and strumming patterns are indicated below each staff.

◆レトラ◆

2行目と4行目に韻を踏んだ8音節4行詩が一般的です。
踊りの伴唱でもよく歌われる曲をいくつか紹介します。

サリーダ

Tran, tran, treiro,
treiro, treiro, treirora.
トラン、トラン、トレイロ、
トレイロ、トレイロ、トレイロラ
Manuel Mairena(1934 - 2013)、Miguel de Tena(1976-)

「トラン・トラン～」で始まるサリーダは他にガロティンでも有名ですが、これはスペイン北部の民謡の特徴の一つとされています。このほか下記の歌い回しも有名です。

Que con el tran tran tran tran treiro
(bailame farruca, bailame a compás)

レトラ1

Una farruca en Galicia
amargamente lloraba
porque se le había muerto el farruco
que la gaita le tocaba.

ある娘(ファルーカ)がガリシアで
激しく泣いていた
男(ファルーコ)が死んでしまったから
ガイタ(バグパイプ)を彼女に吹いてくれていたあの彼が

El Mochuelo(1868 -1937)、Manuel Torre(1878-1933)、Niño de Almadén(1899-1968)、Antonio Mairena(1909-1983)、Rafael Romero(1910-1991)

後半2行だけを porque a la farruca se le había perdió su rebañito de cabras.と変えて歌っているものもあります。

Niña de los Peines(1890-1969)、Esperanza Fernández(1966-)

レトラ2

Y arriba el limon
abajo el olivo
limonero de mi vida
limonero de mi amor.

上にはレモン
下にはオリーブ
私の命のレモンの木
私の愛のレモンの木

El Mochuelo(1868-1937)、Manuel Torre(1878-1933)、Niña de los Peines(1890-1969)、Niño de Almadén(1899-1968)、Antonio Mairena(1909-1983)、Rafael Romero(1910-1991)、Manuel Mairena(1934-2013)

レトラ3

Báilame Malena
tira al viento toda tus penas
rompe ya toda tu cadena
y olvida tú sin razón
mira que carino
que te tengo desde niño
yo te quiero más que nadie
en este mundo.

私のために踊っておくれ、マレーナ
あなたの苦しみはすべて風に放って
あなたを縛る鎖はすべて壊して
それらをただ忘れて
子供のころから抱いてきた
あなたへの愛
誰よりも愛している
この世界の中で

Antonio Calderon(1936-)、Sergio El Colorao (1985-)

◆踊りの構成◆

ファルーカは踊りとギターだけで演じられることが多いります。たとえ歌が入ったとしても他の曲種のように一般的な踊りの構成は存在しません。踊りとギターの掛け合いが多く、曲全体が真剣勝負とでもいえるほど研ぎ澄まされた雰囲気に満ちています。力強くキレのある踊りと対照的にその音楽的要素は限りなく甘く洗練されています。オリジナリティー溢れる劇的な踊りの構成を各自創作してみてください。

次回は10月号になります。2拍子系の曲種説明の第7番目は、いよいよルンバの登場です。キューバのルンバヒルンバ フラメンカ、更にはジプシールンバとの比較やバリエーションの多いリズムパターンなどを紹介する予定です。

音源は片桐勝彦HPで聴けます！

URL <http://www.toshima.ne.jp/~kata/katsu>

同内容のバルマクラス、スタジオロメロで開催中。
8月16、30日、9月13、27日、20:40～終電ぐらいまで